



宗像・沖ノ島と関連遺産群

神宿る島



今年度の世界文化遺産の国内推薦候補として選ばれた「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群。本稿では、平成29年の世界文化遺産登録に向けて大きな一歩を踏み出すことになった遺産群をレポートします。また、「元気な市民と、元気なまちづくり」をめざす宗像市の取り組みを紹介します。

寄稿:宗像市都市戦略室 秘書政策課

崇敬と畏敬の心が宿る 絶海の孤島・沖ノ島

平成27年7月、文化審議会において今年度の世界文化遺産の国内候補として「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が決定されました。九州本土から60km離れた玄界灘の真ん中にある沖ノ島は4世紀後半から9世紀末にかけて、航海の安全や対外交渉の成就を願って祭祀が行われました。沖ノ島の祭祀遺跡からは、神に捧げられた約8万点の品々が発見され、それらはすべて国宝に指定されています。

沖ノ島は島全体が宗像大社の境内（おきつみや 沖津宮）であり、宗像三女神のうち田心姫神が祀られています。「沖ノ島で見聞きしたことを口外してはならない」「沖ノ島から一木一草一石たりとも持ち出してはならない」等、現代も続く厳格な禁忌があり、一般の人の立ち入りは原則禁止されています。人々の篤い信仰や厳格な禁忌によって、神聖性は今も守り受け継がれているのです。



① 沖ノ島の参道入口付近にある正三位社 ② 沖ノ島は今も厳しく入島が制限されている。宗像大社の神職が10日交替で一人だけ常駐して毎日禊を行う ③ 宗像大社辺津宮の「遷座祭」。社殿の修復が終わり、新たに神体を移す祭儀で、2014年12月に43年ぶりに執り行われた ④ 宗像大社は、道の神・宗像三女神を祀る全国約6,200社の総本宮として信仰を集める

また沖津宮・辺津宮とともに宗像大社を構成する3つの宮の一つ「宗像大社中津宮」は、宗像神湊から11km離れた福岡最大の島である大島にあり、三女神のうち湍津姫神を祀ります。島内には、沖ノ島を遙拝するために設けられた「沖津宮遙拝所」もあります。

さらに、九州本土には「宗像大社辺津宮」が鎮座し、三女神のうち市杵島姫神を祀っています。

本遺産はこのほか、沖ノ島で祭祀

を奉斎した海の民の宗像氏が5世紀から6世紀にかけて築いた古墳群「新原・奴山古墳群」で構成されています。

世界でも類をみない価値を持った本遺産。宗像市では、平成29年の世界文化遺産の本登録に向け、福岡県、福岡市、経済団体、文化教育団体、市民代表等とともに新しい一步を踏み出しています。



▲ 沖ノ島の祭祀遺跡から出土された品々。
右は金製指輪、左は三角縁神獣鏡

宗像大社辺津宮にある神域の高宮祭場。写真は
秋季大祭を締め括る祭典「高宮神奈備祭」の様子



10月1日開催

みあれ祭

宗像大社最大の神事は10月1日、3日に行われる「秋季大祭」です。中でも、1日に行われる「みあれ祭」は、壮大な海の神事であり、沖津宮の田心姫神と中津宮の湍津姫神の神輿を載せた御座船が、大島から辺津宮の市杵島姫神の待つ神湊まで海上神幸します。御座船とそれを警固する供奉船は、宗像七浦の漁船であり、数百隻の船が海上を渡る姿は圧巻です。







昭和初期。沖ノ島漁港の様子

海のある暮らし —沖ノ島・大島の懐かしい風景—



① 昔の中津宮 ② 昔の沖津宮遙拝所 ③ 昔の沖津宮



大島港前（現在の大島診療所前）でラジオ体操をする子どもたち



④ 大島で鯛網漁をする漁師 ⑤ 七夕踊りの練習をする大島の娘たち ⑥ みあれ祭の様子 ⑦ 漁をする様子
⑧ 漁村集落の情景（昭和28年） ⑨ 渚に並ぶ古い漁家、平和で静かな大島の情景（昭和28年）

写真提供：板矢 英之

豊かな自然や歴史・文化など、魅力がいっぱい

こころもからだも元気になるまち

宗像に住もうよ！

自然豊かで利便性が良く
教育環境が整ったまち

宗像市は、玄界灘の海、山々、田園風景が広がる自然豊かなまちです。また、福岡市、北九州市の中間に位置する立地条件の良さも見逃せません。JR 鹿児島本線や、国道3号線・495号線が走り、市外へのアクセスも便利です。さらに主要駅のJR 赤間駅周辺には、商業施設が点在し、買い物にも便利です。

子育て世代にとっては、教育環境も気になるところ。宗像市は小中一貫教育や、電子黒板・タブレットなどのICTを活用した授業に取り組むなど、先進的で質の高い教育を行っています。また、グローバル人材育成にも力を入れています。

豊かな自然や文化だけでなく、利便性がよく、安心・安全な居住環境で子育てにいいまち、宗像市。皆さんもぜひ、宗像のまちで新しい生活を始めてみませんか。



市外への交通アクセスも抜群！

